

【中学年】

コロナで変化へんかした親切

新型しんがたコロナウイルス感染症かんせんしやうが流行し、感染予防かんせんよぼうのためには、人と人とのきよりをとることが大切だと言われるようになりました。わたしは、ソーシャルディスタンスを気にするあまり、今まで当たり前のように行動してきたことを、ためらってしまうことが多くなりました。また、親切だと思ってしたことが、相手にとってめいわくだったのではないかと思うできごともありました。

図書館に行ったときです。ベビーカーに乗った赤ちゃんが、おもちゃを落としてしまったのを見かけました。わたしがそれを拾ってわたしたところ、赤ちゃんのお母さんは、おどろいた顔でおもちゃをさっと受け取り、立ち去っていきました。

自分では親切のつもりでおもちゃを拾ったのですが、そのお母さんは、赤ちゃんがさわる物だから、他人にさわってほしくなかったのかもしれないと思っただけなのかな、あまり近づかないでほしいと思ったのかも知れません。

わたしは、さわらずに声をかけて教えるだけにすればよかったのかな、とふくぎつな気持ちでした。何か行動するときには、相手がどう感じるか、感染予防かんせんよぼうのことも考えなければならぬなんて、悲しいことです。

また、わたしは毎年夏休みになると、おじいちゃんの家にとまりにいき、畑やさいの野菜しやうかくの収穫てつたを手伝うことにしています。しかし、今年はとまりにくいのをやめました。万が一、自分が感染かんせんしていたら、うつしてしまうかもしれないし、お年よりは重症化しやさいと言われているからです。しかし、暑やさいい中、一人で野菜やさいを収穫しやうかくするのは大変たいへんだろうと思います。畑仕事を手伝てつたうことはできませんでしたが、感染予防のためにとまりにいかなかったのも、おじいちゃんに対する思いやりです。

このときも気持ちはふくぎつでしたが、おじいちゃんに会いたいという気持ちをおさえ、おじいちゃんやんの命を考えた行動ができた、無理むりやり思いこむことにしました。

それにしても、「新しい生活様式」によって、人との関わり方かかが必ずかしくなり、なんだかさびしい気がします。そんな中で、親切の形も変わからなくてはならないのでしょうか。

他の人の荷物を持ってあげたり、落とし物を拾ちいってあげたりすることは、めいわくになってしまうかもしれません。しかし、あいさつをして地域ちいきを明るくしたり、校内のゴミを拾ちいったりすることは、こんなときでも、また一人であっても、中学生のわたしにもできることだと思います。

コロナウイルスに感染かんせんしないように、日々の生活から手洗い・うがいをしっかり行い、マスクを着けることを心がけ、周りまわの人にもうつさないようにすることも、思いやりの一つだと思います。自分を守ることばかり考えて、親切や思いやりの気持ちを失うしなってはならないと思います。

大変たいへんなときだからこそ、感謝かんしゃの気持ちをわすれず、今できることを考えて生活していきたいと思っています。